

環境社会学会託児アンケート 2010 集計表

1. 学会で開催されるセミナー等において託児室は必要だと思いますか？

必要だと思う⇒18名 わからない⇒1名

1-1. その理由についてお書きください。

1-1. 「必要だと思う」理由一覧

(文意が変わらない範囲で語句の省略・簡略化をしております。)

〈学会の在り方に関して〉

- 託児室「紹介」の形でもよいので学会として用意はすべき時代を感じる。
- 子育て中の人にもセミナーは開かれている事が望ましい。そのサポートも必要。
- 託児室がないことで参加を断念している人がいれば、もったいないことだから。
- 小さい子どもを預ける先がないという理由でセミナーに参加できないことは、本人の研究に支障が出るだけでなく、研究者全体の問題であると思われるから。
- 乳幼児を持つ会員が学会に参加しやすい環境を整えることは、会員の研究の上でも、学会の人的資源の上でも、また社会の子育て支援という意味からも非常に重要。
- 若手研究者支援の一環として位置付けるべき。
- セミナー等の参加に際して、各会員の自由な参加を妨げる諸配慮事情(身体障害、母子・父子家庭、老親介護、その他)に先ずよく配慮一般を示してから、幅広い会員の自由な学会参加を念頭しその重要な課題の一つとして託児室を考えるならば、必要だと思う。

「ただ託児室のみ必要ありき」稚拙な議題ならば、それ以外の諸配慮事情に優位して学会で取り組むべき事柄か、各個々人で解決すべき事柄か、実際的な理由が了解しがたいので返って全く、必要だと思わない。(※1)

〈ジェンダー的視点から〉

- 学会で女性研究者の努力(苦労?)を身近に見知ってほしい。
- 男女問わず参加しやすくなる。困っているのは女性だけだと想定しない方が良い。男性だって育児当番が考えられる世の中。
- 男性会員も、子どもが小さければ、安心して家族を連れてこられるような環境や雰囲気望ましい(宿泊に相部屋以外も選択できるような)。

〈子供と過ごす時間の確保〉

- 平日勤務をしている研究者が休日をつぶして参加する学会に子連れで参加できる環境を整えておくべき。
- 学会で遠方に出かけるので家族も連れて行きたい(ただでさえ毎週のように調査で家を空けるので)。

〈乳児保育（母乳育児）の観点から〉

- 乳児の場合、授乳等もあるので近くにいたい。
- 地方開催の場合、子どもと離れる時間が長くなり、とくに乳児を持つ会員は参加が難しい。

〈実際の困難から〉

- 学会時やフィールド調査のときに子どもの託児が難しく参加を諦めるか、自力で託児施設を探す、最後の手段として同行させることをしてきたため、託児環境が整備されるとよいと考える。
- 過去数回、託児室の設置がなければ、学会参加は困難だった。子供が小さい今、託児室の存在は学会参加を可能性とする必須要件。子育ての期間は長く、小学校入学までも約6~7年間、小学校低学年までを含めると10年近くにもなる。
- 家族内での育児の分担も必要だが、シングル・ペアレントの場合もあるし、両親がいる場合でも出張が重なるなど子供同伴が必要となる場合もある。
- 不安定な夫の託児以外に、選択肢が増えることは好ましい。
- 以前、自由報告で、小さいお子さん連れの会員を見かけたが、報告に集中できない様子だったから。また、周囲の会員も、そちらに目が行きがちだった。

〈日曜休園の保育所の問題〉

- 通常、市町村の保育園では土曜日は半日保育、日曜日は休業となっているので、子供を預けないとセミナーに参加できない人には必要なサービス。
- 保育園の場合、日曜日は託児をやっていない。

「わからない」の理由（1件）

- あれば、乳幼児を持つ人も参加しやすい。しかし、移動の大変さを考えると、自宅に置いて行く方が、楽である（※2）。会場での託児代相当の支給を受けることができれば、経済的に助かる。

〔託児世話人会コメント〕

学会参加困難者は、いくつかの指摘にあったように育児中の会員だけではない。身体障がいについては、大会だけではなく学会誌も含めて障がい者からのアクセスを可能にするような配慮が必要である。介護についても同様だが、どのような形で支援できるのかは検討が必要である（飛行機チケットの介護割引のようなかたちで、大会参加費を割引にするなど?）。一般的には、育児中の会員は、キャリア形成途上にあり、収入も不安定である可能性が高い。より積極的な支援が望まれる。

2. 環境社会学会にとってどのような託児室が望ましいか、自由にお書きください。
(文意が変わらない範囲で語句の省略・簡略化をしております。)

〈保育者に関して〉

- 保育士の有資格者がうれしい。看護師もいればなおのこと望ましい。救急対応は完備してほしい。
- できれば保育士のいる環境に預ける方がよいが、業者との契約が難しい場合は、開催者が保育スペースを確保したうえで、参加者どうしが協力してお互いの子供を一時的に見てあげる方法もよいのではないか。
- 子供たちが遊べるスペースが確保され、ボランティアも含めて、誰か大人が複数で見ている状況。
- 業者からマットやおもちゃを借り、会員どうしが相互扶助的に保育。男女協同・・・とか、権利を振りかざして他者をお願いしたり、他者が労力を割いている状況もよいとは思わない。規模に合わせた適切な形をとればいいのではないか。

〈物的環境・遊具に関して〉

- おもちゃなどは、塩ビなど不使用の物にするなど、人体・地球環境への配慮を希望する。

〈エクスカージョン・保育内容に関して〉

- 環境社会学会の場合、エクスカージョンのあるセミナーでどのように設けるかが議論のしどころではないか。
- 手配など大変かもしれないが、環境学習など、子供を対象にしたエクスカージョンを体験できるような託児室。
- エクスカージョンを行うセミナーの場合、その地域の自然環境と子どもが触れ合えるような、子ども向けセッションがあってもよいのではないかと思う。
- まずは安全面など基本的要件を満たした託児室を整えることが課題だが、将来的に環境社会学会ならではの、たとえば環境教育的な要素を盛り込んだ託児室が設置できたら、会員・子供ともに満足度が増すと思う。
- エクスカージョンが一つの特徴になっている春のセミナーの場合、会員である親と一緒に参加できるのが望ましいかもしれないが、他の会員の方への配慮が必要。可能であれば、ある程度大きい子には環境教育的な場を設定することがよいし、小さい子は保育所とあまり変わらない状況で保育できるような場が望ましい。

〈運営・費用負担に関して〉

- 以前、学会セミナーの運営に関係したとき、託児の手配に関する学会の支援が実質的にはほとんど存在しないことに驚き、また手配に苦勞した。基本的には、託児環境は全額学会負担で用意し、個人にかかる託児費用の半額補助なども学会で制度化すべきと思う。なお、これは大会参加費ではなく、会費収入から拠出できるようにすることが、費用の性質上好ましいと思う（大会参加費の中に託児負担金が含ま

れていると、経費から落としにくいという参加者もいると思うので)。

ただし、託児環境の手配を学会事務局や大会事務局に背負わせるのは、負担が大きいし、大会ごとの対応にばらつきが出てくるので、現状の託児室世話人会のような組織が任意で作られ、そこで決まった具体的内容を事務局が了承するしくみがよいと思う。

○託児室でのベビーシッター代の一部を、環境社会学会で補助して、利用者の経済的負担が軽くなるような制度を整えるべきだと思う。

○春のセミナーは隔年で地方で行われ、ベビーシッター業者がない地域や、遠方からシッターを呼んでくる必要がある場合が珍しくない。そういう場合、託児室が開設されていても、料金が高額で、利用を躊躇することもあった。託児室の利用について、利用しやすいよう、利用者が負担する金額を一定とし、それ以上は学会負担とするようなシステムを構築していただけると助かる。

○記載趣旨(※1)に沿って準備される託児室が望ましいし、その方が長く広く受け入れられると思う。

〈その他〉

○参加する研究者が利用しやすいもの。

○わからない

○上記(※2)に記載したように、移動に係る環境負荷をなくすこともできるので、自宅託児も一つの方法だと思う。

〔託児世話人会コメント〕

まずは、保育の質と安全の担保が第一である。それと同時に、環境教育の要素を取り入れた託児という新しい展開への期待も少なくない。葛巻セミナーは、その一つの成果であったように思う。

3. お子さんの人数をご記入ください。

0人⇒9名、1人⇒2名、2人⇒5名、3人⇒3名

3-1. そのうち託児を必要とする子どもの数を教えてください。

0人⇒0名、1人⇒4名、2人⇒5名、3人⇒3名

3-2. 託児を必要とする子どもの年齢を教えてください。

0-2歳⇒5名、3-6歳⇒5名、小学生⇒6名

4. 現在、学会のセミナー参加において託児室を利用したいですか？

利用したい⇒7名、利用しない⇒3名、わからない⇒3名、無記入⇒6名

4-1. その理由についてお書きください。また利用したい場合、どのように利用したいか自由にお書きください。

(利用したい)

- 土日に開催が多く、保育園に預ける事ができないため、利用したい。
- 行った先での託児可能は助かる。(別の場所に預けるといふ)託児先経由の参加よりも(開催場所に託児室があるので)思い切って学会に参加ができそう。
- 子ども一人だけ家に残すことになるので、それはできず、学会参加をするのであれば、託児室を利用せざるをえない。
- 葛巻セミナーでの託児は、子どもたちにとって貴重な体験ができてよかった。
- 利用したい。なぜならばいつも母子一緒に行動せざるをえないため。
- 利用したい。未就学の子どもが二人いて、連れ合いが出張のため利用。
- サービスにもよるが、有償でも利用したい。

(利用しない)

- 利用しない。なぜならば家人が面倒をみてくれるため。
- 妻が専業主婦のため今の所託児室は必要ない。
- 利用しない。末子は小学校高学年で、他の姉妹も中高生で、祖母も同居し、父も自宅で仕事をしているため。
- 夫に(子どもを)預けられるため、利用はしたことがない。ただし夫に出張等が入ったら利用したい。
- 託児環境がよければ利用したいが、悪ければ利用しない。
- 切実に必要ではないが、小学生の子どもはセミナー開催地に関心を寄せるようになってきた。

[託児世話人会コメント]

家庭状況の違いが、利用する／しないの理由に直結している。

学会託児の意義は、育児中の会員が有する保育に関する資源の多少に関わらず、等しく学会に参加できる機会を保障することにある。

5. これまでに他の学会を含め託児室を利用したことがありますか？

ある⇒6名、ない⇒7名、無記入⇒6名

5-1. 「ある」と答えた方にお訪ねします。それはいつ、どの学会／セミナーで場所はどちらでしたか？よろしければ費用も合わせて教えてください。

- 電気学会(富山大)、会場内の託児施設、1000円程度
- 学会紹介もしくは自身で探した近隣の保育園に同規定の保育料を支払い預けた。

○23 区の講演セミナー、隣接関連施設で2時間無料(土日でも)

隣接建物での託児なら、1時間2000円は妥当と考える。

○日本森林学会(九州大)、学内保育士派遣。2日間で10300円(昼食おやつつき)

○日本アフリカ学会(近畿大)2歳～就学前：無料

○日本アフリカ学会(東京農大)4歳：無料

○日本アフリカ学会(東京外大)0歳：2日間(7時間/日)で1万円

○日本社会学会(立教大学)1時間1000円

○日本社会学会(立命館大学)乳児：3時間で6000円、5歳(年中)3時間で5000円

○日本社会学会(関東学院大学)1歳：3時間で6000円、夜間料金50円、シッター交通費380円

○日本社会学会(東北大学)1セッション2000円

○環境社会学会(赤谷セミナー)

(自由報告とシンポジウム)

7歳14,000円(自由報告とシンポジウム)、2歳14,000円、3歳14000円

3歳と1歳の姉妹：21000円

(エクスカージョン時+入会金)

3歳と1歳の姉妹：18220円

○環境社会学会(名古屋大)4歳、2歳：21030円(2200円×8時間×税+2550(交通費))

○環境社会学会(京都教育大)1時間2415円+交通費負担、または1時間1575円で会場から電車を二つ乗り継いで30分。

○環境社会学会(葛巻セミナー)

未就学児：保育所では1日1600円+200円(おやつ代)、参加費からお弁当代。

牧場体験プログラム：1日のみでも半日でも1000円、2日間で2000円。お昼大は参加費から。

5-2. 利用した感想についてお書きください(利用してよかった点、不便だった点など)

○会場内だと授乳期には助かる。安心感もあった。

○託児施設を探すのも大変なので会場内にあると助かる。

○託児室は狭かった。

○葛巻セミナーは一軒家なので「お互い様」で見ることができたり、(夜の委員会活動で親が不在の時、他の親がお風呂にいれたりなど)、いわゆる子どもが迷惑をかける「夜泣き」や「音だし」「かけまわる」など、気にせずによかった。

また子ども向けの体験プログラムにも参加ができ、貴重な体験をすることができた。何より経済的に助かった。

○託児開設はありがたい。費用は利用しやすい体系か、学会補助があるとありがたい。

○子どもがそれなりに楽しめていたようでよかった。

○子育て中の会員どうし、親密になれた。

○(23 区の講演セミナーで)ミルク哺乳瓶持参を守ったのに、「お湯がないから」(湯沸かし併設の設備と思われるのに=専用保育ルームだったので)と与えてもらえず、戻ったなら泣いている子に会うはめになったのが不満。区からは先述のみ用意を言われ、託児担当の NPO は区から聞いていないという連絡行き違いにつき、その点は徹底すべきと思われる。

○学会会場に隣接した場所で、お部屋の大きさも広く、専門の保育士が複数いたので、安心して託児し、学会に参加することができた。3 才だったので、預ける際の荷物が最小限で済んだ。0~2 歳の子どもだと預ける場合にはミルク、紙おむつなどの用意が必要で、大荷物になって大変だったかもしれない。2 日間で 10300 円は、妥当な値段だと思ったが、学会参加は何かと出費がかさむので、もう少し安くなると利用しやすくなると思う。もし開催する学会から託児所利用者へ助成金等がでるようだったら、大変助かるだろうと思う。

〔託児世話人会コメント〕

お忙しいところ、アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

会員の皆様のご理解を得られるような活動になるよう、今後ともご意見、ご助言よろしくお願い致します。

学会託児室助成金情報(2010年現在)

■ 学会負担金について

- ・ 学会託児室を設置している学会では、ベビーシッター費用の一部を学会で負担している。
- ・ 白井千晶さんの論文を参照
<http://homepage2.nifty.com/~shirai/pdf/gakkai.pdf>

日本物理学会(会員数約2万人)

- ・ 4日間開設、12名利用。
- ・ シッター費用約22万円のうち、12万円を学会が負担。(残り10万円を利用者12名で割ると、一人負担約8,333円となる。)

日本化学学会(会員数約3万5千人)

- ・ 3日間開設、10名利用。
- ・ シッター費用約12万円のうち、5万円を学会が負担。(残り7万円を利用者10名で割ると、一人負担約7,000円となる。)

日本生化学会(会員数約1万人)

- ・ 4日間開設、延べ20名利用。
- ・ シッター費用264,100円のうち、213,490円を学会が負担。(残り50,610円を利用者20名で割ると、一人負担約2,530円となる。)

分子生物学会(会員数約1万4千人)

- ・ 4日間開設、延べ45名利用。
- ・ シッター費用535,250円のうち、379,350円を学会が負担。(残り155,900円を利用者45名で割ると、一人負担約3,464円となる。)

天文学会

- ・ 97年春より創設。会場利用料は全額学会が負担。例年利用者負担額を3000円/日と定め、利用者負担額を引いたシッター料を学会が負担している。99年秋の大会では、シッター料の7割を学会が負担。
- ・ だいたい、子どもが2~3人、ベビーシッター1~2人、開設期間2~3日の場合、予算は約7~9万円となり、そのうち5~8万円を学会が負担。

生物物理学会

- ・ 2001年に「学会保育所」を学会のサポートによって継続的に設置していくことが決まり、学会からの補助によって保育料が300円/hr/人に大幅減額された。

日本細胞生物学会

- ・ 2001年に大会のサポートが全支出の8割となったことで、保育料は200円/hr/人に大幅減額された。

日本獣医学会

- ・ 2000年に3,000円/日/人とし、利用者負担額を差し引いた額を学会が負担した。

薬理学会

- ・ 1999年春から、全面学会からの補助により、保育料が無料となる。

地質学会

- ・ 1998 年秋に 3 名利用。利用者負担 2,000/半日、あとは学会から補助。

土壌肥料学会

- ・ 99 年夏に 3 名利用。学会から 29,000 円補助。

日本医学会

- ・ 2007 年の総会で、半額を総会が負担。

日本神経科学会

- ・ 2001 年春に全額学会負担。(学会負担額: 42 万円)

日本外科学会

- ・ 2001 年、全額学会負担。(学会負担額: 92,400 円)

日本病理学会

- ・ 2007 年、無料。

日本心理学会

- ・ 2007 年、無料。

日本体育学会

- ・ 2005、2006 年、無料。

日本文化人類学会

- ・ 受益者負担が原則だが、学会補助あり。

日本建築学会

- ・ 2007 年、無料。

日本薬学会

- ・ 2007 年、無料。

日本麻酔科学会

- ・ 2006 年、定員制無料。

アジア政経学会

- ・ 2007 年、1 時間 600 円/1 人、二人目半額、院生半額、院生二人目無料。

日本国際政治学会

- ・ 2007 年、1 日 1 時間 200 円、二人目は 1 日 1 時間 100 円。

日本小児アレルギー学会

- ・ 2006 年、無料。

日本家族医療学会

- ・ 2007 年、子供一人につき、1 日、2 日にかかわらず一律 2,000 円。

日本臨床細胞学会

- ・ 2006 年、利用者負担額以外学会補助。(1 日 1 人 1,500 円～2,000 円程度)

日本白内障学会

- ・ 2007 年、無料。

日本社会学会

- ・ 3 時間 6,000 円～6,600 円。(以降 30 分 1,000 円)、二人目以降半額、夜間割増あり。

日本家族社会学会

- ・2007年に1日2,000円の料金とし、差額は研究者支援のため開催校が負担。

■ 考察

- ・理系の学会は会員数が数万人単位と、環境社会学会の約700人という会員数とは桁が違い、その分、学会としての予算が潤沢にあることが、ベビーシッター費用の学会負担を可能にしているのではないかと思われる。
- ・ベビーシッター費用のうち、学会負担金の割合は約6割～8割くらいようだ。
- ・ベビーシッター費用のばらつきが大きく、学会負担をする場合、利用者負担額を事前に決めておき、それ以上かかった場合に費用を学会が負担するか、もしくは学会負担額を事前に決めておき、それ以上かかった場合に利用者で応分の負担をするかが想定できる。
- ・託児する子供が二人目以降は半額としていたり、利用者が院生である場合は負担を半額としているなどの制度があり、利用者一人あたりの子供の数や、利用者の属性を考慮した料金体系を作る必要があると思われる。

■ 子ども未来財団の助成金

「コンサート・講演会頭託児室支援事業」という助成制度がある。

<http://www.kodomomiraizaidan.or.jp/concert/23concert.html> 参照

- ・助成の対象者は、コンサート、講演会、シンポジウム、研修会、講習会等を主催し、コンサート等の実施時間中に乳幼児を預かる臨時の託児室を設置運営する主催者。
- ・ただし、参加者が概ね100名以上、託児児童数が概ね10名以上という規定がある。また、実施日前直近日の託児希望者名簿及び実施日当日の出決票を提出する必要がある、前日と当日のいずれも託児(希望者)数が6名に満たない場合は助成対象とはならない。
- ・そのため、環境社会学会のセミナー参加者は100名以上にはならず、託児児童数も10名未満であることが多いと思われるため、この助成制度の利用は難しいと思われる。